

2018年1月17日

環境大臣 中川雅治 殿

TOKYO ZEROキャンペーン

代表理事：藤野真紀子

「幼齢犬猫の販売等の制限」に関する要望書

日本ではいまや、犬や猫の飼育頭数が15歳未満の子どもの人口を超えています。家族のような存在であるはずなのに、全国の自治体では平日毎日、約300匹もの犬猫たちが殺処分されています。そして、一部の悪質なペットビジネスによって闇に消えていく命は、公的機関によるカウントすらできない状況です。

日本ほど大規模に、生体を流通・小売業という業態で売るビジネスが発展した事例は、欧米先進国ではほとんどみられません。日本ではこのビジネスを支えるために、全国各地で工場化した繁殖業と競り市（ペットオークション）が営まれています。その結果、毎日約2200匹もの犬や猫が国内では流通されています。

人間のパートナー、家族として生まれてきたはずなのに人間に虐待され、捨てられ、殺されていく命があります。私たちTOKYO ZEROキャンペーンでは67人（組）の呼びかけ人とともに、東京オリンピック・パラリンピックの開催年である2020年までにこうした状況を変えたいと、「三つの解決策」を掲げて活動しています。

具体的には、

▽ペット産業適正化のために「8週齢規制」を早期に実施するよう国や自治体に働きかけていくこと

▽捨てられた犬や猫の福祉向上のために、全国の自治体にある「動物愛護センター」を保護し、譲渡するための「ティアハイム」的施設に転換するよう促していくこと

▽「保護犬」「保護猫」との出会いを広めていくこと

という三つです。

この度、特に強く環境大臣に要望するのが、一つめの「8週齢規制」の早期実施です。8週齢（生後56～62日）に満たない、幼すぎる子犬や子猫を生まれた環境から引き離すと、精神的外傷を負う可能性が高く、無駄ぼえやかみ癖などの問題行動も起こしやすくなります。このこと自体、動物福祉の観点から大きな問題となっています。問題行動が、飼い主による飼育放棄の可能性を高めてしまうことも、見過ごせません。

母親から受け継ぐ移行抗体の減少にともなう免疫力の不安定化も懸念され、犬猫の流通・小売りの事情に詳しい獣医師らからは、繁殖から流通・小売りまでの過程における子犬・子猫の膨大な死亡数につながっているという指摘もあります。

またペットショップは、8週齢に満たない幼すぎる子犬や子猫を販売することで、消費者に衝動買いを促すことをビジネスモデルの根幹に据えている実態があります。衝動買いが、安易な飼育放棄につながりやすいことは、言うまでもありません。

つきましては貴殿に対して、「動物の愛護及び管理に関する法律（以下、動物愛護法と
いいます。）」において速やかに「8週（56日）齢規制」を実現してくださるよう、ここ
に強く要望するとともに、環境省自然環境局総務課動物愛護管理室や中央環境審議会動物
愛護部会など関係各機関において「8週（56日）齢規制」にかかわる検討を進める際、
または環境省として国会議員に対して動物愛護法附則第七条第三項に関連して情報提供を
行う際には、以下の各事項について考慮いただけますよう、ここにお願い申し上げます。

記

1. いわゆる「8週齢規制」は、8週齢（生後56～62日）までは子犬や子猫を産まれ
た環境から販売目的等のために引き離すことを禁じる規定で、米国、英国、ドイツ、
フランスなど欧米先進諸国では常識となっているものです。幼すぎる子犬・子猫につ
いて、母親から受け継ぐ移行抗体の減少にともなう免疫力の不安定化を避け、親兄弟
と一緒に生まれた環境で過ごすことによる十分な社会化等をはかる——という心身両
面の健康への配慮から、科学的知見とブリーダーの経験知とを合わせて勘案し、各国
で制定されています。

欧米先進国の多くで8週齢規制が常識であるにもかかわらず、日本の「動物の愛護
及び管理に関する法律（以下、動物愛護法といいます。）」では現在、「出生後49
日を経過しないものについて、販売のため又は販売の用に供するために引き渡し又は
展示をしてはならない」となっています。本則には「出生後56日」と明記されてい
るにもかかわらず、附則によっていつ実現するかわからない「緩和措置」が設けられ
たために、「8週（56日）齢規制」実施の見通しが立たないという、きわめて不自
然な状況にあります。

他方で、動物愛護法は議員立法によって制定、改正されてきたものであり、201
2年改正の際の立法者の意思が「8週（56日）齢規制」の実現にあったという重い
事実も存在します。

日本の法律がいつまでたっても「8週（56日）齢規制」を実現できないままで
は、今日この日も、そしていつまでも、幼すぎる子犬や子猫が親元から引き離され、
心身の健康リスクにさらされ続けます。

2. TOKYO ZEROキャンペーンでは2014年4月28日の発足以来、ネット署
名サイトchange.orgを利用して「8週齢規制の早期実施」を訴える署名活動を行って
参りました。本日、環境大臣に提出させていただいた通り、その数は10万7190
筆（2018年1月16日現在）に達しています。

change.orgによると、日本国内で10万筆以上の署名を集めたキャンペーンは5件
に満たず、TOKYO ZEROキャンペーンが集めた署名数は「日本国内ではトッ
プ中のトップ」と言います。これほど多くの国民が「8週齢規制の早期実施」を望ん
でおり、この規制の意味や重要さが社会一般に定着していることは、たいへん重い事
実です。

3. 札幌市は2016年10月に、埼玉県三郷市は2017年12月に、それぞれ「8週齢規制」を努力義務として盛り込んだ条例を施行しています。また札幌市においては条例制定時点で、同市内で繁殖業を営む事業者全204施設のうち129施設（約63%）が既に「57日後に譲渡する」と「犬猫等健康安全計画」に記載しているという実態もあります。両市に追随して、同様の趣旨の条例制定を検討する自治体も出てきています。これらも、「8週齢規制」が既に社会一般に定着していることを示す、たいへん重い事実です。
4. 全国ペット協会（ZPK）の小島章義会長（株式会社コジマ代表取締役会長）は、超党派の国会議員らが作る「犬猫の殺処分ゼロをめざす動物愛護議員連盟」が開催した2017年5月29日の会議の場において、8週齢規制導入について賛意を示されています。別の大手ペットショップチェーンの経営者も、実名を出すのを控えつつも「8週齢を過ぎて出荷される子犬・子猫のほう健康上のリスクが減る。8週齢規制の導入は望ましい」とされています。また、子犬や子猫をペットショップには出荷せず、直接消費者に販売している優良ブリーダーの多くも、8週齢規制の導入に賛成しています。これらは、犬猫等販売業者に「8週齢規制」の意味や重要さが浸透していることを示す、たいへん重い事実です。
5. 米ペンシルベニア大のジェームス・サーペル教授は、2014年9月28日にTOKYO ZEROキャンペーンが主催したセミナーにおいて「『8週齢規制』をすると決められるのなら、それは良いことだと思います。私は個人的には、最適なタイミングは、7週齢から9週齢のちょうど真ん中である8週齢だと申し上げています。新しい飼い主のもとに行くのは、推奨としては8週齢です」と発言されているほか、2017年2月26日に環境省が主催したシンポジウムにおいても「子犬は最低でも8週齢でなければいけないと決めるなら、素晴らしいことで、それはある種の安全な妥協点です（The decision to say were the puppy should be at least 8 weeks old is fine, that is kind of a safe middle ground）」と発言されています。これらの指摘から、子犬の引き離し時期として8週齢が適当であることは明白です。
6. フィンランド・ヘルシンキ大の研究チームは2017年、「The difference in the probability of behavior problem between cats weaned before 8 weeks of age and between 12-13 weeks of age was large」 「Early weaning may threaten the welfare of cats」 「cats weaned at 14-15 weeks of age were at a lower risk for stereotypic behaviour（常同行動）」などとして、「the welfare of home living cats may be improved by pushing the recommended weaning age to 14 weeks」とする論文を発表、子猫については14週齢以降で引き離すことを強く推奨しています。

7. イタリア・ミラノ大などの研究チームは2011年、「compared with dogs that remained with their social group for 60 days, dogs that had been separated from the litter earlier were more likely to exhibit potentially problematic behaviours, especially if they came from a pet shop」などとする論文を発表、子犬については生後60日以降の引き離しが望ましいことを示唆しています。
8. 日本小動物獣医師会が2011年に会員獣医師らに行った調査では、子犬・子猫を親元から引き離す時期として好ましいのは「56日齢以上」とする回答が81・3%にのぼっています。
9. 環境省から業務請負する形で「犬猫幼齢個体を親等から引き離す理想的な時期に関する調査」を行った麻布大の菊水健史教授は2017年12月15日、解析結果を公表し、子犬については、7週齢（生後50～56日）で引き離された個体群と8週齢（生後57～69日）で引き離された個体群との間で、問題行動を起こす割合について「有意差があることがわかった」と明らかにしました。同調査においては、子犬や子猫の繁殖業者が「法規制をかけた翌日には流通に乗せている。できるだけ早く出したいと思っていることがわかる」（菊水教授）という指摘もなされています。これらのことから、子犬については、親等から引き離す「理想的な時期」が8週齢であることは明白です。

また同調査では子猫については、6週齢（生後46～49日）で引き離された個体群、7週齢（生後50～56日）で引き離された個体群、8週齢（生後57～68日）で引き離された個体群のいずれの間で比較をしても「有意差が出てきませんでした」（菊水教授）。この結果は、「猫同士の遊びは12～14週齢まで盛んに続く」（The Domestic Cat）ことや上記6を鑑みれば、子猫を引き離す時期としては8週齢でも早いことを示唆している可能性があります。

以上

【TOKYO ZEROキャンペーン呼びかけ人（2017年9月1日現在、五十音順）】

秋吉久美子さん（女優）／ATSUSHIさん（ダンサー[Dragon Ash/POWER of LIFE]）
／安藤優子さん（ニュースキャスター）／生島ヒロシさん（フリーアナウンサー）／イズミ
カワソラさん（音楽家、トリマー）／梅沢浩一さん（放送作家）／太田光代さん（株式会社
タイタン代表取締役）／落合務さん（ラ・ベットラ・ダ・オチアイ オーナーシェフ）／織
作峰子さん（写真家）／門倉健さん（プロ野球解説者）／蟹瀬誠一さん（ジャーナリスト、
明治大学国際日本学部教授）／金子達仁さん（スポーツライター、ノンフィクション作家）
／假屋崎省吾さん（華道家）／木下航志（キシタコウシ）さん（ミュージシャン）／木場弘
子さん（キャスター、千葉大学客員教授）／熊谷喜八さん（料理人、「KIHACHI」総
料理長）／小暮真久さん（NPO法人テーブル・フォー・ツー・インターナショナル代表）
／児玉小枝さん（写真家、フォト・ジャーナリスト）／小林里香さん（モデル）／小六禮次
郎さん（作曲家、編曲家）／近藤秀和さん（Lunascap 株式会社最高経営責任者）／斉藤和
義さん（ミュージシャン）／三枝成彰さん（作曲家）／佐藤大吾さん（一般財団法人ジャパ
ンギビング代表理事）／SHELLYさん（モデル、タレント）／塩村あやかさん（放送作
家、前東京都議会議員）／ジョンBさん from ウルフルズ（ミュージシャン）／SILVA
さん（歌手）／神野美伽さん（歌手）／杉山愛さん（プロテニスプレーヤー）／スギヤマカ
ナヨさん（絵本作家）／世良公則さん（ミュージシャン、俳優）／竹内薫さん（サイエンス
作家）／田中英成さん（株式会社メニコン代表執行役社長）／田辺アンニイさん（『それ
でも人を愛する犬』著者）／陳建一さん（料理人）／継枝幸枝さん（ファッションデザイナー）
／トータス松本さん from ウルフルズ（ミュージシャン）／富坂美織さん（産婦人科医）／
とよた真帆さん（女優）／新妻聖子さん（女優、歌手）／西川りゅうじんさん（マーケティ
ングコンサルタント）／野中ともよさん（ジャーナリスト、NPO 法人ガイア・イニシアティ
ブ代表）／倍賞千恵子さん（俳優、歌手）／服部幸應さん（服部栄養専門学校理事長、医学
博士）／ハリス鈴木絵美さん（change.org アジア・ディレクター）／久石譲さん（作曲家）
／藤井秀悟さん（元プロ野球選手）／藤野真紀子さん（料理研究家、元衆議院議員）／BONNIE
PINKさん（ミュージシャン）／bonobos（ミュージシャン）／堀紘一さん（株式会社ドリー
ムインキュベータ代表取締役会長）／麻衣さん（歌手）／増田太郎さん（ヴァイオリニスト）
／松嶋初音さん（タレント）／松原耕二さん（作家、ジャーナリスト）／松原賢さん（一般
社団法人 Do One Good 理事）／マロンさん（フードスタイリスト）／三國清三さん（オテ
ル・ドゥ・ミクニ オーナーシェフ）／ミス・ワールド・ジャパン・オーケストラ（ミュ
ージシャン）／南美布さん（ラジオDJ）／宮本亜門さん（演出家）／八塩圭子さん（フリー
アナウンサー、学習院大学特別客員教授）／山田美保子さん（放送作家）／山口正洋さん（投
資銀行家、ぐっちーさんとして著書に『日本経済ここだけの話』など）／湯川れい子さん（作
詞家、音楽評論家、エンジン01文化戦略会議動物愛護委員会委員長）／与田剛さん（プロ
野球解説者）